

展望

紙・印刷機械小特集の 発行に当たって

取締役執行役員
紙・印刷機械事業部長

和木坂 史生
Fumio Wakisaka



紙・印刷機械事業部は、紙と印刷の両方にかかる技術と製品を研究開発する世界で唯一の企業であり、主な製品は、紙を作る製紙機械、ダンボールシートを作り、それを印刷して箱形に加工する紙工機械、写真集などの高級な印刷物を印刷するオフセット枚葉機、チラシや雑誌などを印刷する商業用オフセット輪転機、1時間に18万部の世界最高速で印刷することのできる新聞用オフセット輪転機を主要な製品として製造しています。

これらの製品を魅力ある製品にすべく、“お客様第一主義に徹し、飛躍しよう、世界の紙・印刷機械事業部に！”をスローガンに、関連会社を含めた紙・印刷機械事業部グループが一丸となって、数々の活動を実践しています。

その中で、当事業部の活動の柱として、平成13年度から“CS-KIK（聴く）運動”に取り組んでいます。この運動は、お客様の言わることを、一生懸命に聴いて、改善・開発に取り組もうというものです。この取り組みの成果として、各製品の新製品が市場から御好評を頂いています。特に新聞用オフセット輪転機の新製品である“DIAMOND STAR”及び印刷品質管理装置の“DIAMOND EYE™”では、2005年度に、日本印刷学会より“技術賞”，日本新聞協会より“技術開発賞”，更に当社との共同開発者である読売新聞社殿が受賞された“新聞協会賞”的3つの賞を頂きました。

“CS-KIK（聴く）運動”

“CS-KIK（聴く）運動”的CSとは顧客満足のことであり、この活動は、“顧客第一の信念に徹し、社業を通じて社会の進歩に貢献する”という、社はの第一文が基本にあります。本当の顧客満足を追及した機械とは、お客様が私たちの機械を使用されて、どういった商品を作り、その商品がどういう役割をして、どう終わるかまでを考えた機械のことであると痛感しています。

私どもは、お客様が困っておられることを開発のヒントとしていただき、そのヒントを基に、うまくニーズをつかんだ製品開発を行い、お客様が利益を上げていただける機械、すなわちお客様の事業の差別化が実現できる機械を提供することを目指しています。本号で紹介させていただく技術及び製品は、そのような製品とすべく開発したものです。

すなわち、CO₂削減の環境対応にこだえるために、新たな着眼点による省動力化を実現した、製紙機械の“省

エネ型抄紙機プレスロール”。

高速運転のまま、減速することなく紙継ぎを行う要望にこだえた紙工機械の“コルゲータ用世界最速紙継ぎ装置”。

商売の優位性を持つために、印刷製品の即納化を考えられているお客様の要望にこだえた、オフセット枚葉機の“即納対応両面水性ニスコーティング技術”。

難度ゆえに印刷業界の夢であった、印刷寸法の変更を実現した、“バリアブルサイズ商業用オフセット輪転機”。

オペレータの感覚に頼っていたカラー印刷の色合わせ作業を自動化し、調整用損紙の低減を実現した、世界初の新聞用オフセット輪転機用“インライン品質制御装置”。

これらはすべて、原理に立ち戻って考え、かつ、長い間に培われた技術の蓄積を持って新しいことに挑戦する、当事業部だからこそ為したことだと自負しています。

危機管理対策

当事業部では、危機管理対策に関しても力を入れています。製品の品質を高め、かつ、あらゆるリスクに対応できるように、製品設計や取扱説明書も含めてリスクアセスメントを強化しています。また、企業の社会的責任が問われている中、コンプライアンスや環境対策に対しては特に注意し、徹底しています。

当事業部は、映画の舞台としてよく登場する尾道の近隣にあり、瀬戸内海に面した風光明媚な環境の中になります。当事業部では、この環境の保全を目的とした環境保全特別措置法に従い、早くから環境アセスメントに取り組んできました。

更に昨今は、製品の環境対策についても十分な対応が求められています。省エネ法や各分野のリサイクル法、さらに人体に影響を及ぼす有害化学物質への対策を労働安全衛生の観点からも要求されています。これらの要求に対応するため、当事業部では“エコ製品の開発”と環境の負荷の少ない材料・部品・製品を優先的に調達する“グリーン調達基準の作成”に取り組んでいます。

本号に紹介させていただいた技術と製品は、生産や生産準備に必要な時間を短縮することにより、効率を上げ、結果としてエネルギーの使用量を少なくする、“エコ製品”として期待できるものです。

これらの活動に今後とも取り組んでいきますので、これからも引き続き、私どもの活動に御指導と御支援を賜りますようにお願い申し上げます。